

✿ 毎月23日は「福岡市 子どもと本の日」です ✿

～ 子どもの読書活動を推進しましょう ～

□ 第2回 学校図書館担当者連絡会の報告

2月21日（水）に、福岡市教育センターで、第2回学校図書館担当者連絡会がありました。

この連絡会では、最初に全体会、その後、分科会を行いました。

全体会では、まず、学校指導課から読み上げ冊数の調査結果の報告や次年度の学校図書館全体計画の作成などの説明がありました。次に、学校図書館支援センターから蔵書構成の基本的な考え方などについて説明がありました。また、「何か図書のことでも困ったことがあったら相談してください。」と、お知らせがありました。

分科会では、同じような学級数の学校が3校から5校でグループをつくって情報交換を行いました。

そこでは、ベテランの先生の実践について熱心に質問する姿や他の学校の先生の話をして一生懸命記録したり、うなずきながら聞いたりする姿が多くみられました。学校図書館の環境を改善したり、子どもたちの読書量を増やしたりするための手だてを少しでも学ぼうという、先生方の意欲がよくわかる情報交換会でした。

会場の入口そばに、学校図書館支援センターがLLブック*や情報リテラシーに関する本、リーディングトラッカー*などを展示していました。そこで、連絡会終了後、先生方が、展示物を見たり学校図書館支援センターの読書相談員から説明を聞いたりしていました。有意義な学校図書館担当者連絡会だと思いました。



(グラフや表を使って説明する学校指導課の話)



(本を見せて説明する学校図書館支援センターの話)



(情報交換をする先生方)



(入口そばに展示された本や資料)



(展示された本を手にする先生方)



(文章の上に置かれたリーディングトラッカー)

※LLブックとは知的障がい、学習障がいなど通常の図書の利用が困難な人にも理解できるように、図や写真を多く使うなどの工夫をして書かれた本です。

※リーディングトラッカーとは、本を読むとき、読みたい行に集中して読めるようにするため、両隣の行の文字を隠して読み進める読書補助具です。発達障がい、視覚障がいのある方もサポートします。

Hello! 学校図書館

今年度も、福岡市内の小中学校、特別支援学校を訪問し、図書館の様子などを紹介していきます。学校の図書館の運営や環境づくりなどの参考になればと思います。

《壱岐中学校》

壱岐中学校は、20学級612名の学校です。生徒会や部活など、いろいろ忙しい中学生が、図書館に来たとき、目的に応じた本がを見つけやすかったり、本を選びやすかったりするため、さらに、読書の幅を広げることにつながるようにするため、表示や展示・配架などに工夫をしています。また、中学校の専門委員が、図書館の環境づくりをがんばっている素晴らしい図書館です。

○ 表示の工夫



(POPが貼られた出入口のドア)



(POPが貼られた図書館のカウンター)

図書館の出入口のドアやカウンター、掲示板にPOPを貼り、本を選びやすいような工夫をしています。



(図書館の柱の掲示板)



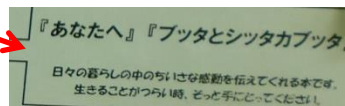
(立体的な「文化委員おすすめの
本」の表示と文化委員のPOP)



(掲示されたPOP)

図書館の柱につけある掲示板には、「文化委員おすすめの本」の表示を立体的に作っています。また、明るい色と目立つような配色で、「中学生に読んでほしい本」と表示し、一緒に本も展示する工夫をしています。

図書館に来た生徒が、読みたい本をすぐに見つけることができるように、また、本を手にとってもらえるように、書名や本の内容などを簡潔に書いて貼る工夫をしています。



(回転書架の表示)

「『あなたへ』『ブッタとシッタカブッタ』日々の暮らしの中の小さな感動を伝えてくれる本です・・・」と、生徒の心に響く表示をしています。



(中学生に読んでほしい本の展示)

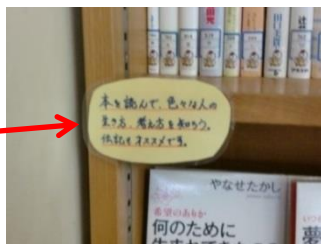


(書架の表示)

「日本の企業のチカラ、技術のチカラを知ろう!! スゴイ技術のウラにはスゴイ人が・・・」と生徒の興味を持たせる表示をしています。



(立志応援文庫の書架)



「本を読んで色々な人の生き方、考え方を知ろう。・・・」と、現在・未来の生き方を考えるような表示をしています。



(家庭科の書架)



「おいしいものをたべませんか」と、食べることに興味を引くような表示をしています。

○ 展示・配架の工夫

読書の幅を広げることにつながる配架をしています。また、机や展示書架などを活用して話題になった本や文学賞を受賞した本など、本の表紙が見えるような展示の工夫をしています。



(机には 直木賞や芥川賞を受賞した作者の作品を含め展示)



(丸いテーブルに展示された本)



(パソコンラックを活用した本の表紙が見える展示)

部活にがんばっている生徒にも、いろいろな本を読んでもらうため、芥川賞や直木賞受賞作品のコーナーを一緒にした配架の工夫をしています。



(窓際に設置している書架)



(「芥川賞受賞」「直木賞受賞」と表示している配架)



(部活に生かせる本の配架)



(展示書架の配架)

雑誌「Newton」「Science Window」などを配架しています。



(書架の前に机を置き、本を展示)



(芥川賞受賞作品の「コンビニ人間」の表紙を見せ、「火花」のPOPや他の文学賞受賞の作品を展示)

図書館後方の書架の前に机を置き、芥川賞や直木賞受賞作品、話題となった本を目立つように展示しています。

4生まれの文学者たち



きむら ゆういち(木村 裕一) と「あらしのよるに」

1948 年 4 月 14 日 東京都生まれ

きむら氏は、子どもの頃、自分自身に自信がありませんでした。そして、多摩美術大学卒業後、造形教育の指導やテレビ幼児番組のアイディアブレインなどを経て、絵本・童話作家になりました。

「あらしのよるに」は、「講談社出版文化賞・絵本賞」などの賞を受賞するだけでなく、映画化・アニメ化されました。映画は「日本アカデミー賞・優秀アニメーション作品賞」、舞台脚本は「斎田喬戯曲賞」を受賞し、2014年には歌舞伎で上演されました。また、光村図書の小学4年生や大阪書籍の小学5年生の国語教科書に採用されました。

きむら氏の作品は、ストーリーがおもしろく、絵本・童話・脚本・漫画など幅広く、作品数の多い作家の一人です。その数は650作を超えています。また、その作品は、韓国・中国・イタリア・ブラジル・フランスなど、様々な国の言葉に翻訳され、世界中で愛読されています。きむら氏の作品は、「12支キッズのしかけ絵本」「オオカミのおうさま」「ごちそうがいっぱい」などがあります。1996年に、「あらしのよるに」は、ドイツ・ミュンヘン国立図書館選定図書に選ばれています。



いわむら かずお(岩村 和朗)と「14ひきのひっこし」

1939 年 4 月 3 日 東京都生まれ

いわむら氏は6人兄弟です。5歳の頃、教師であった両親と離れ、兄と2人で自然豊かな秋田県の祖父母の家に疎開しました。戦後東京の杉並区に戻り、8畳一間の家に親子8人で暮らしました。貧しかったのですが、家の周りには雑木林があり、近くには川が流れているなど、豊かな自然に恵まれていました。学校の教科は、小中高とも美術が好きでした。そして、将来、「表現する仕事」「自由な職業」に就きたいと思い、東京芸術大学工芸科に入学しました。

いわむら氏は、大学生の時、NHKの「歌の絵本」という子どもの歌番組で、歌に合わせて絵を描くアルバイトをして、「絵本」のおもしろさに気づきました。そして、結婚後、生まれた子どもに絵本を読んであげる中で、「絵本は、子どもにとって、とても大事なものだ。」ということを知り、絵本を自分でも書きたいと思うようになりました。

「14ひきのひっこし」は、小さいころから豊かな自然に囲まれた家で、家族みんなと一緒に暮らしたことなどが素地になっています。そして、いわむら氏は、作品の舞台と同じように雑木林の中で暮らしながら描いていきたいと思ったことや4人目の子どもが生まれて、子どもたちを広々とした自然の中で育てたいと思ったことなどから、栃木県・益子に移り住みました。

いわむら氏は、雑木林の中を歩き回るなかで、絵本のイメージが生まれてきます。そして、絵本毎に専用のスケッチブックをつくり、何か思いついた時に該当するスケッチブックにいろいろ描き、いくつもの絵本を同時に仕上げていきます。

「14ひきのシリーズ」は、海外の多くの国で出版されています。1998年4月、いわむら氏は、栃木県馬頭町に「いわむらかずお絵本の丘美術館」を開館しました。そして、2014年にフランスの芸術文化勲章シュヴァリエを受章しています。



福岡アジア美術館「4月の案内」

* アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ

8日(日), 10日(火), 22日(日), 24日(火)

・時 間: 11:30~12:00 13:00~13:30

・場 所: 7階「キッズコーナー」(申し込み不要)



福岡市総合図書館「4月の案内」

* 毎月のおはなし会

7日(土), 8日(日), 14日(土), 15日(日)

21日(土), 22日(日), 28日(土), 29日(日)

・時 間 土曜日: 7日, 21日

14:30~14:45 赤ちゃん向けおはなし会

14:50~15:10 幼児向けおはなし会

14日

14:30~14:45 幼児向けおはなし会

14:55~15:10 つくってみよう やってみよう(幼児向け)

28日

14:30~15:00 こどもの読書週間特別おはなし会(幼児向け)

日曜日: 14:30~ 幼児向けおはなし会

15:15~ 小学生向けおはなし会

・場 所: 「こども図書館 おはなしの家」



□ 図書館員のひみつの本棚 《No.143》

福岡市総合図書館 読書相談員の重村さやかさんが、毎月素敵な本を紹介してくださる楽しいコーナーです。

今回は、絵画の謎をテーマにした中学生から一般向けの本です。この作品は、17世紀、イタリアからスペインの宮廷に連れてこられた少年ニコラスの成長を、実在の名画「侍女たち」に秘められた謎にからめて描いているスペインのファンタジーです。

この作品は、スペインの二大児童文学賞の一つである「ラサリーリョ賞」を受賞し、国際児童図書評議会(IBBY)のブックリストにも選定されています。

きっと、時間を忘れて読んでしまう本だと思います。

✽ 今月の本

『ベラスケスの十字の謎』

エリアセル・カンシーノ/作 宇野 和美/訳 徳間書店 2006年 1512円

♪ あとがき * * * * *

今年度も、あと数日となりました。学校の図書館では、蔵書の点検などで大変だと思います。

さて、学校図書館の運営や環境整備など図書館に関わっている教職員が対象の学校図書館担当者連絡会に行ってきました。連絡会では、自分たちの学校で抱えている課題を解決したいという先生方が活発に情報交換をしていました。また、学校図書館支援センターが会場の入口そばに、LLブックや情報リテラシーに関する本、リーディングトラッカーなどを展示していました。連絡会終了後、たくさんの先生方が、展示してある本を見たり、リーディングトラッカーを手に取り使い方を聞いたりしておられました。先生の中には、展示してある本を写真に撮り、次年度の本の購入に生かそうとする姿も見られました。放課後も、明日の授業の準備や会議、部活の指導などで忙しい先生方ですが、図書館担当として、一生懸命取り組んでいる姿がうかがわれました。

この通信ではできるだけ色々な学校の読書活動例を紹介したいと思います。

発 行： 福岡市教育委員会 生涯学習課

電 話： 7 1 1－4 6 5 5 F A X： 7 3 3－5 5 3 8

図書館員のひみつの本棚 第 143 回

今月は、絵画の謎をテーマにした物語です。

『ベラスケスの十字の謎』

エリアセル・カンシーノ／作 宇野 和美／訳 徳間書店 2006年 1512円

<お勧め年齢>

乳幼児-- 低学年-- 中学年-- 高学年-- 中学生☆☆☆
高 校☆☆ 一 般☆☆

(☆が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

少年ニコラスは大きくなれない体であることを理由に、父親に捨てられ、故郷のイタリアからスペイン宮廷に連れてこられる。父親の愛情を得ることはできなかった彼だが、その利発さで宮廷では自分の居場所を手に入れることができた。

そんなある日、王宮の中で酔った貴族とトラブルを起こしてしまった彼は、友達の助言により、宮廷画家のベラスケスに助けを求めに行く。そこにはベラスケスと一緒に正体不明の男ネルバルがいた。ネルバルの提案で、ベラスケスが今描いている絵の中に描かれることになったニコラスは、その事がきっかけでベラスケスに仕えることになる。

この絵をどう描けばいいのか思い悩んでいたベラスケスは、ニコラスをネルバルのもとに使いに出す。ネルバルに助言を求めたのだ。しかし、ネルバルはニコラスに助言を与えず、代わりに未来を見せる。

17世紀のスペインを舞台に実在する絵の謎を物語にしたファンタジー。

<子どもに手渡す時のポイント>

17世紀を代表するスペインの画家ベラスケスの描いた「侍女たち（ラス・メニーナス）」にまつわる謎をテーマにしたファンタジー。本の中の絵がモノクロなので、ベラスケスの画集などからカラー版の絵を見せてあげると物語世界が更に広がっていくと思います。スペインの児童文学賞ラサリーリョ賞受賞。国際児童図書評議会（IBBY）が選ぶブックリストにも選定されています。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

